

新刊児童図書リスト

(平成 24 年上半期版)

平成 24 年 10 月
広島県立図書館

第 22 号



📖 リストについて

- ・ このリストに掲載した絵本は、平成 24 年 1 月から同年 6 月までの間に出版されたものです。また、児童図書は、平成 24 年 1 月から同年 7 月までの間に出版された読み物です。
- ・ このリストの各テーマは、本を紹介しやすいように便宜上設けたものです。他のテーマに分類できるものもありますが、御了承ください。
- ・ 【 】の中は、県立図書館の請求記号です。E は絵本、C は知識の絵本を表します。
- ・ このリストで取り上げた本は、全て広島県立図書館で借りることができます。また、お近くの公立図書館を通して借りることもできますので、御利用ください。

絵本

◆ おいしいもの

『おべんとう』小西英子／さく，福音館書店【E コ】

炊きたて御飯に熱々ミートボール，色鮮やかにゆでたブロッコリーと，一つひとつ丁寧に，お弁当箱に詰めていきます。

『東北んめえもののうた』長谷川義史／著，佼成出版社【E ハ】

宮城県の牛タン，福島県の喜多方ラーメン，岩手県のわんこそばなど，東北3県の「んめえもん」を紹介しています。譜面もあるので，リズムに合わせて読むこともできます。

◆ 不思議

『だれのたまご』斉藤洋／作，高島那生／絵，フレーベル館【E ㇿ】

カエルの卵があると思ったら，生まれてきたのはカエルではありませんでした。いろいろな卵が次々と現れて，不思議な物が生まれます。『ぞうの金メダル』『バースデーDOG』などのナンセンス絵本を生み出してきたコンビの作品です。

『中をそうぞうしてみよ』佐藤雅彦／作，ユーフラテス／作，福音館書店【E ㇿ】

木製の椅子に，くぎは何本使われているでしょうか。ボールペンの先はどのようになっているでしょうか。エックス線写真で，見えなかったものを見ることができます。

◆ 言葉

『さかさことばでうんどうかい』西村敏雄／作，福音館書店【E ニ】

騎馬戦や跳び箱，重量挙げなど，運動会で動物たちが奮闘する様子を，回文で描いた絵本です。

『あいうえおみせ』安野光雅／さく／え，福音館書店【E 7】

絵本の上の段には、「あめや」「いしやきいもや」「うんそうや」…と、あいうえお順に、下の段は、いろは順にお店が並んでいます。

◆ ユーモア・ナンセンス

『おひげおひげ』内田麟太郎／作，西村敏雄／絵，鈴木出版【E 9】

普通はひげがないはずの子どもや家，女の子，ついには空や山までひげが生えてきて，みんなおかしい顔になっています。内田麟太郎さんのリズムカルな文と西村敏雄さんのユーモラスな絵が，楽しい雰囲気を出しています。

『おなかのなかの，なかのなか』あさのますみ／ぶん，長谷川義史／え，学研教育出版【E 7】

食いしん坊のねずみチュッチは，食べても食べても腹ペコのまま。森にごちそうを探しに出かけると猫に食べられてしまうのですが…。猫のお腹の中でも食べまくるチュッチのたくましさに，子どもたちもびっくりすることでしょう。

『おひさん』たかべせいいち／さく，くもん出版【E 9】

村人たちがいつも楽しそうだから，一緒に遊んでみたいと降りてきた「おひさん」。熱い熱い「おひさん」に村人たちは大騒ぎ。不思議なインパクトのある絵本です。

◆ 動物

『かにのしょうばい』新美南吉／作，山口マオ／絵，鈴木出版【E 2】

かにが床屋を始めましたが，客が来ません。そこで山に行くと，タヌキがいました。しかし，タヌキは大きくて毛むくじゃらなので，なかなか仕事がはかどりません。

『ぴたっとヤモちゃん』石井聖岳／作，小学館【E 1】

ヤモリのヤモちゃんは，森のネコさんやカメさんなど，みんなにくっつくのが大好きです。あるとき，ヤモちゃんはカラスにくっつきませんが，振り落とされてしまい…。

『あかちゃんかたつむりのおうち』いとうせつこ／ぶん，島津和子／え，福音館書店【E イ】

かたつむりの赤ちゃんが，花や葉っぱをたくさん食べていました。すると，てんとうむしに，食べ過ぎると背中のおうちに入れなくなると言われて，心配になります。

◆ 知識の絵本

『はばたけ！ツバメ』孝森まさひで／しゃしんとぶん，そうえん社【C 4】

春になり日本にやって来たツバメの，巣作りからヒナの旅立ちまでを追った写真絵本です。日本で見ることのできる5種類のツバメも紹介されています。

『じゅえきレストラン』新開孝／写真・文，ポプラ社【C 4】

木の樹液に，虫が集まっています。虫は樹液を吸うだけでなく，そこでおしっこをしたり，けんかをしたり…。虫を狙ったカエルも，木に成りすまして潜んでいます。樹液レストランで起こるドラマを，迫力満点の写真で紹介します。

◆ 自然

『いっしょだよ』小寺卓矢／写真・文，アリス館【E コ】

『森のいのち』『だって春だもん』に続く，森の写真絵本。生まれたての木の芽も，小さなきのこも，一人ぼっちではなく，みんなと「いっしょだよ」と優しく語りかけます。

『ばけばけばっぱ』藤本ともひこ／著，ハッピーオウル社【E フ】

赤や黄色の落ち葉や木の実を使って，動物の形を作った写真絵本です。初めのページは動物の一部が見えていて，ページをめくると，全体の姿が現れます。

◆ 乗り物

『はしる！新幹線「のぞみ」』鎌田歩／[作]，PHP研究所【E カ】

まもるくんは，初めて新幹線に乗ります。最高時速 270 キロになる N700 系のぞみを，スピード感のある迫力満点の絵で表現しています。まもるくんと一緒に，本当にのぞみに乗った気分になれる絵本です。

『ダンプのちびトラ』マージェリー・カイラー／作，ボブ・コーラー／絵，とりやまみゆき／訳，偕成社【E カ】

「おいらちびトラ，ダンプカー うんてんしてるん ピートやねん」と，ちびトラが関西弁で元気よくおしゃべりします。ちびトラの他にも，ポップな色使いの乗り物が登場します。シカゴの公立図書館が選ぶ「ベストオブベスト」絵本です。

『トンネルをほる』ライアン・アン・ハンター／文，エドワード・ミラー／絵，青山南／訳，ほるぷ出版【E ハ】

山の中や，川の下，街の下にもあるトンネル。どうやって掘っているのでしょうか。掘り方だけでなく，トンネルの歴史や役割にも触れています。動物や銀行強盗が掘るトンネルも載っています。

◆ 気持ち

『ようちえんいやや』長谷川義史／作・絵，童心社【E ハ】

「ようちえんいくのいややー」と，たけしくんもまなちゃんもつばさくんも泣いています。泣いている理由はいろいろありますが，その本当の訳は…。ユーモアと優しさにあふれた絵本です。

『おやおやじゅくへようこそ』浜田桂子／作，ポプラ社【E ハ】

「おやおやじゅく」は，親が子どもの気持ちを理解するために通う塾です。先生は子どもです。塾では，子どもと大人，それぞれの仕事について勉強します。

『おかあさんのまほうのおうかん』かたおかけいこ／作，松成真理子／絵，ひさかたチャイルド【E カ】

泣き虫の男の子が，5歳の誕生日に，お母さんから「まほうのおうかん」をもらいました。それは，目には見えませんが，かぶるとピタッと涙が止まる，不思議な王冠です。男の子は，涙が出そうになったとき，「まほうのおうかん まほうのおうかん」と唱えて，涙をこらえました。

◆ 命

『おしえておしえて』 マーカス・フィスター／作，谷川俊太郎／訳，講談社【E 7】

『にじいろのさかな』で、ボローニャ国際児童図書展エルバ賞を受賞した作者の作品です。自然や命に関する子どもの疑問を、キラキラの箔押しと美しい絵で描いています。

『ぼくのこえがきこえますか』 田島征三／作，童心社【E 8】

「ぼく」は、戦場で砲弾に吹き飛ばされて死んでしまいました。怒った弟は、戦争に行つて死のうとします。「日・中・韓平和絵本」シリーズ。

◆ 海

『はまべにはいしがいっぱい』 レオ・レオニ／作，谷川俊太郎／訳，好学社【E 9】

昭和54年にペンギン社から発行された本の再刊です。浜辺には、魚の形をした石や、人の顔に見える石など、たくさんの石があります。

『おーなみこなみざぶん!』 長野ヒデ子／作，西村繁男／絵，佼成出版社【E 10】

照りつける太陽に入道雲，カキ氷，夕立，花火…と，夏の楽しさが詰まった絵本です。「ヒデ子さんのうたあそびえほん」シリーズ。

『うみのおまつりどんとせ』 さとうわきこ／さく・え，福音館書店【E 11】

「ばばばあちゃんの絵本」シリーズ。ばばばあちゃんは、海岸で大きな鯨が寝ていて困っているという手紙をもらいます。そこで、太鼓やラッパなど大きな音が出るものを集めて、仲間たちと海に向かいました。

◆ 昔

『みつつのねがい：エストニアの昔話』 ピレット・ラウド／再話・絵，まえざわあきえ／訳，福音館書店【E 12】

怠け者で貧乏な夫婦がいました。あるとき、突然おじいさんが現れ、願い事を3つかなえてやると言います。考えに考えて疲れた奥さんは、つい「ソーセージがあったら」と言ってしまう。

『商人とオウム：ペルシャのおはなし』[ルーミー／原作]，ミーナ・ジャバアービン／文，ブルース・ホワットリー／絵，青山南／訳，光村教育図書【E M】

しゃべるオウムのおかげでお金持ちになった商人は，オウムを金の鳥かごに入れて飼っていました。でも，鳥かごは窮屈で，オウムは故郷のインドに帰りたくてたまりません。13世紀のペルシャの詩人ルーミーの詩を基にしたお話です。

◆ 絵の力

『ゼロ弾きのゴージュ』藤城清治／影絵，宮沢賢治／原作，講談社【E ミ】

『銀河鉄道の夜』でBIB金のりんご賞を受賞した藤城清治さんの影絵絵本です。

『空とぶ鉢：国宝信貴山縁起絵巻より』寮美千子／文，長崎出版【E リ】

昔，命蓮さんという偉いお坊さんがいました。お坊さんは鉢を持って山を下り，お布施をもらいますが，命蓮さんは山から下りることはありませんでした。「信貴山縁起絵巻」の「飛倉の巻（山崎長者の巻）」を絵本にしたものです。

『旅する蝶』新宮晋／著，文化学園文化出版局【E シ】

カナダからメキシコに渡る蝶「オオカバマダラ」の旅を，力強く鮮やかな色彩で描いています。

『宝島』ロバート・ルイス・スティーヴンソン／原作，クレール・ユバック／翻案，フランソワ・ロカ／絵，藤本朝巳／訳，横山安由美／訳，小峰書店【E ス】

冒険小説の『宝島』を，独自の切り口で絵本化した作品です。灯台守の女性が，砂浜に打ち上げられた古い本を開くと，『宝島』の登場人物が一人ずつ現れ，語り始めます。「愛蔵版世界の名作絵本」シリーズ。次の『ドラキュラ』も，同シリーズです。

『ドラキュラ』プラム・ストーカー／原作，リュック・ルフォール／再話，ブリュチ／絵，宮下志朗／訳，舟橋加奈子／訳，小峰書店【E ス】

法律事務所で見習いをしている青年が，とある城砦を訪れると，そこはドラキュラ伯爵の屋敷で…。

◆ 赤ちゃん向け絵本

『がたんごとんがたんごとんざぶんざぶん』安西水丸／さく，福音館書店【E 7】

「のせてくださーい」と小さな汽車に乗り込むのは，アイスクリームやビーチボールなど，夏にちなんだものばかりです。

『ぼぼんびぼんぼん』松竹いね子／文，ささめやゆき／絵，福音館書店【E 7】

「ぼぼんびぼんぼん かばさんの おへそは どーこ」。すると，かばさんは，ひっくりかえって「ここ」とおへそを指差します。たろうくんも，さるも，みんなかわいいおへそがあるんですね。

『おいもさんがね…』とよたかずひこ／さく・え，童心社【E 1】

「おいしいともだち」シリーズ。目を覚ましたおいもさんが地面から顔を出し，自分たちでつるを一生懸命引っ張ります。そして，「すっぽーん」と抜けて転がって…。

『くんくんにこいぬがうまれたよ』ディック・ブルーナ／ぶん／え，まつおかきょうこ／やく，福音館書店【E 7】

犬のくんくんの様子がおかしいので病院に連れて行くと，赤ちゃんが生まれることが分かりました。

『おっばい』まつおかたつひで／さく・え，そうえん社【E 7】

「かあさん おなかがすいたよ」と，猫の赤ちゃんがお母さんのおっばいを飲みます。カンガルーや鯨は，どうやっておっばいを飲むのでしょうか。ページをめくると，赤ちゃんがお母さんのおっばいを飲む様子が現れる，仕掛け絵本です。

◆ シリーズ絵本

『妹背山婦女庭訓』近松半二／原作，橋本治／文，岡田嘉夫／絵，ポプラ社【E 7】

絢爛豪華な「橋本治・岡田嘉夫の歌舞伎絵巻」シリーズの第5弾。大化の改新をヒントにして作られた物語です。

『くろずみ小太郎旅日記 その7 秘湯，まぼろし谷の怪の巻』飯野和好／[作]，クレヨンハウス【E 1】

くろずみ小太郎が，信州のとある湯治場にやってきました。ここは，物の怪が出るというので，村の人めもめたに足を踏み入れません。そこに現れたのは，「ゆのはな童子」でした。

『いちにちおぼけ』 ふうべあきひろ／さく，かわしまななえ／え，PHP 研究所【E 7】

唐傘おぼけや口裂け女にのっぺらぼう。一日だけ、おぼけになってみると…。『いちにちおもちゃ』『いちにちぶんぼうぐ』『いちにちのりもの』に続く絵本です。

『よろしくともだち』 内田麟太郎／作，降矢なな／絵，偕成社【E 9】

コダヌキは、キツネたちと遊びたいのですが、オオカミが怖くて仲間に入れません。それを知ったオオカミは落ち込み、笑顔の練習をします。「おれたち、ともだち！」シリーズ。

『みょうがやど』 川端誠／[作]，クレヨンハウス【E 11】

みょうがを食べ過ぎると物忘れをするといういわれを信じた宿屋の夫婦が、客にみょうが料理を出して、忘れ物をさせて、それを奪うという計画を立てます。「落語絵本」シリーズ。

児童図書

◆ 慈しみ

『ピーターサンドさんのねこ』 ルイス・スロボドキン／作，清水眞砂子／訳，あすなろ書房【933 ス】

夏の間、島にバカンスにやってくる人たちは、楽しく過ごすためには「ねこがいなくては」と地元に住んでいるピーターサンドさんのところに、ねこを貸してもらいに行きます。

ある夏、ピーターサンドさんは、大けがをして、島を出なくてはならなくなりました。ねこたちは、一体どうなるのでしょうか。

『兵士のハーモニカ：ロダリー童話集』 ジャンニ・ロダリー／作，関口英子／訳，岩波書店【973 ロ】

イタリアの児童文学作家ジャンニ・ロダリーが、民話をヒントに、人間の生き方や社会の出来事を風刺的に描いた短編集。兵士の持っているハーモニカの音色を聞くと、人はみな、優しい気持ちになりましたが、ある日、兵士は、うっかりハーモニカを落として見失ってしまいます。

『そして、ぼくの旅はつづく』サイモン・フレンチ／作，野の水生／訳，小林万希子／画，福音館書店【933 7】

ドイツ生まれの少年アリは、大好きなおじいちゃんが教えてくれたバイオリンを、毎日欠かさず練習していました。何でも器用にこなす少年の繊細な心の内を描いています。パトリシア・ライトソン児童文学賞。

◆ 優しい気持ち

『ネジマキ草と銅の城』パウル・ビーヘル／作，野坂悦子／訳，村上勉／画，福音館書店【949 7】

銅でできたお城には、千年も生きていた王様が住んでいました。王様の心臓は今にも止まろうとしていました。王様の命を永らえるには、ネジマキ草という薬草を手に入れる必要があります。

まじない師がネジマキ草を探す旅に出かけている間、王様の命を永らえるためには、胸がわくわくするような物語を、毎晩お聞かせしなくてはなりません。

『タネオがきた』すとうあさえ／作，福田岩緒／絵，文研出版【913 8】

熊本に住む小学生のタミオは、転校で、東京に行くことになりました。そんな時、大好きなひいおじいちゃんが病気で倒れてしまいます。後ろ髪ひかれるタミオでしたが、一緒に、クヌギの木の下で過ごした思い出を胸に、引っ越して行きます。

タミオは、東京で、クヌギのどんぐりを育てることができたら、ひいおじいちゃんが元気になってくれるような気がして、クラスみんなにも、どんぐりを育ててみることを提案します。そんなタミオのことを、みんなは、「タネオ」と呼ぶようになります。

『ポテトサラダ』福明子／作，江頭路子／絵，学研教育出版【913 7】

昔ながらの商店街にあるお肉屋さんの手作りポテトサラダ。いつも、お店にポテトサラダを買いに来ていた小学生のケイクンは、なぜだか、急に、来なくなってしまいました。

◆ ドキドキ・ワクワク

『ペッパー・ルーと死の天使』ジェラルディン・マコックラン／作，金原瑞人／訳，佐竹美保／絵，偕成社【933 マ】

聖コンスタンスの予言で14歳までに死ぬと言われた少年ペッパーは、いつも、自分がどんな死に方をするのかを考えていました。14歳になった日、ペッパーは、どうせ死ぬのだったらと、家出をすることにしました。

『ロージーとムサ』ミヒャエル・デコック／作，ユーディット・バニステンダール／絵，久保谷洋／訳，朝日学生新聞社【949 ㊦】

引っ越してきたマンションで友だちになったロージーとムサ。一緒に眺める屋上からの風景は、抜群です。ところが、管理人のタックさんは、二人に気付かずに、屋上の入口に鍵をかけてしまいます。ベルギー最優秀児童文学賞銀賞受賞。

『妖怪一家九十九さん』富安陽子／作，山村浩二／絵，理論社【913 ト】

人間が大勢いる団地で、ひそかに生活することになった妖怪一家。おとうさんはヌラリヒョン，おかあさんはろくろっ首，子どもたちはアマノジャクに一つ目小僧…。果たして，人間たちにばれないように生活していくことはできるのでしょうか。

◆ 魔法使い

『アーヤと魔女』ダイアナ・ウィン・ジョーンズ／作，田中薫子／訳，佐竹美保／絵，徳間書店【933 シ】

アーヤは、引き取られていった魔女の家で、掃除や食事の準備を手伝う代わりに、魔法を教えてもらう約束をしました。でも、魔女はいつまでたっても魔法を教えてくれません。アーヤと、魔女との駆け引きが楽しいお話です。

『おつかいまなんかじゃありません』柏葉幸子／作，つちだのぶこ／絵，ポプラ社【913 カ】

飼っていた小鳥を逃がしてしまったまゆちゃんに、黒い服を着た女の人が、親切そうに話しかけてきました。女の方は、まゆちゃんの小鳥を捕まえてくれる代わりに、売店に行って「マギリカディはこられません。」と言ってくるように頼むのでした。

◆ あこがれ

『ライオンがいないどうぶつ園』フレート・ロドリアン／作，ヴェルナー・クレムケ／絵，たかはしふみこ／訳，徳間書店【943 ㊦】

プリッツェルという新しい町では、町の人たちが手作りで動物園を建てることになりました。出来上がった動物園には、ビーネとウリが楽しみにしていたライオンがいませんでした。二人は、毎日のおやつを我慢してお金を貯めようとみんなに声をかけましたが…。

『海辺の宝もの』ヘレン・ブッシュ／著，鳥見真生／訳，佐竹美保／画，あすなろ書房【289 ㊦】

今から二百年前。12歳のメアリーは、お父さんに連れられて行く海岸で「変わり石」を集めるのに夢中でした。内向的だけれど探究心あふれるメアリーの成長を描いています。学問上きわめて重要な化石を次々と発掘したメアリー・アニングの子ども時代を描いた作品。

『かえるのそらとぶけんきゅうじょ』村上勉／作，偕成社【Y913 ㊦】

大きなどんぐりの木に住んでいるかえるは、空を自由に飛ぶちょうちよのことがうらやましくて仕方ありません。かえるは部屋に閉じこもり、どうしたら空を飛べるかを毎日研究するのでした。

◆ 社会

『八月の光』朽木祥／作，偕成社【913 ㊦】

原爆投下前後の人々を描いた作品。8月6日の朝、広島市内に出かけて行った母親は戻ってきませんでした。近所の人から、母親が、銀行の前の石段に座っていたことを聞いた娘は、銀行の跡地に行ってみました。そこで、娘が見たものは…。

『おっちゃん、なんで外で寝なあかんの？：こども夜回りと「ホームレス」の人たち』生田武志／著，下平けいすけ／絵，あかね書房【368 ㊦】

著者の生田さんは、横浜市で子どもたちがホームレスを襲撃する事件が起きたことをきっかけに、ある活動を始めました。それは、野宿をしている人たちの本当の姿を子どもたちに伝えていく取組です。大阪市西成地区で、児童館の子どもたちが、ホームレスの人に食べ物などを配る「子ども夜回り」をしている様子を紹介しています。